

2012年度日中学院校友会中国旅行

「華僑の故郷広東省世界遺産開平樓閣群・梅州・潮州を訪ねる旅」

2013年2月2日

文責 校友会旅行委員 猪飼

今回の旅は寒くない地方ということで、広東省への旅を企画した。実際には今冬、現地は記録的な寒さで、朝は4度まで下がった日もあるという。

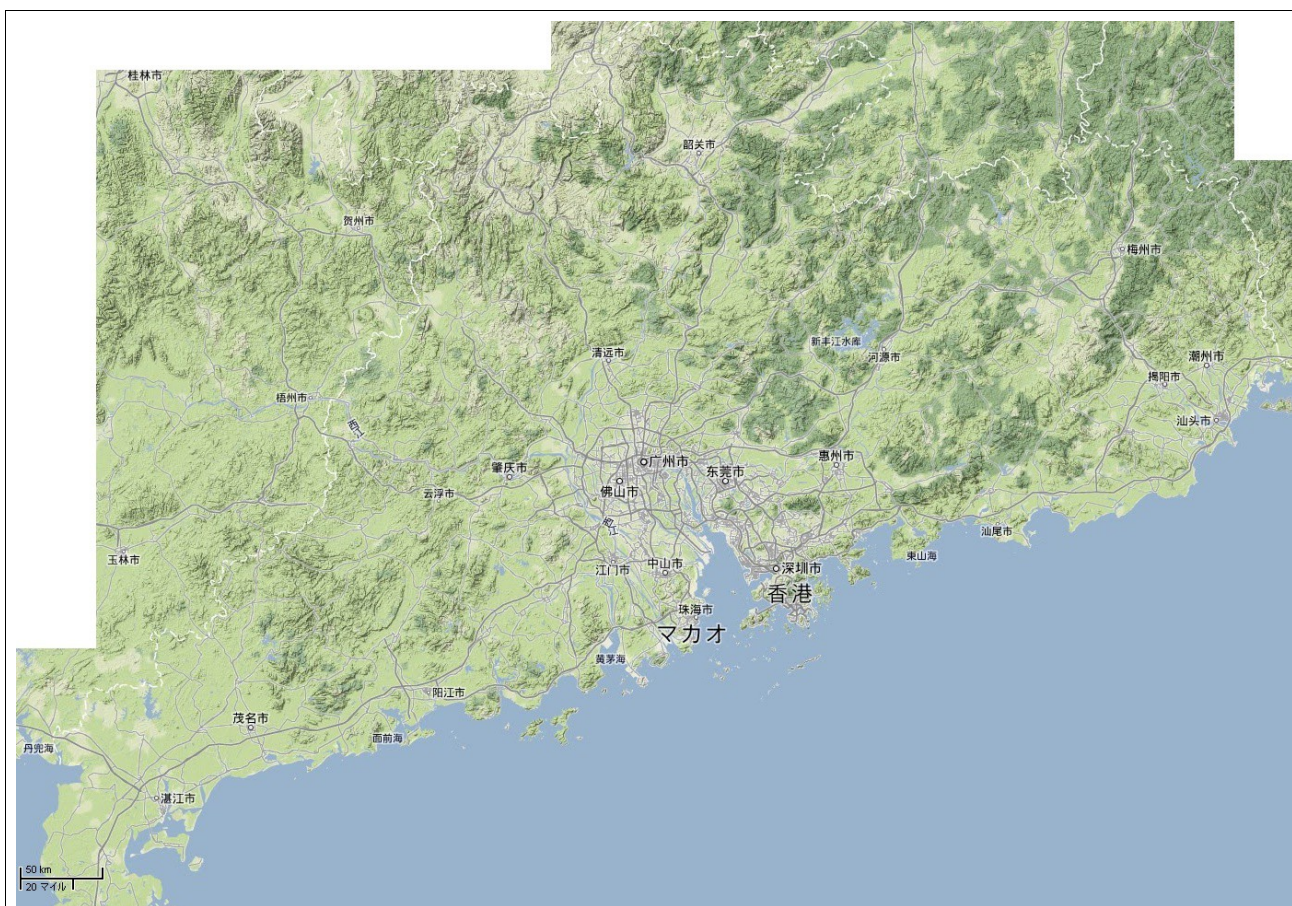
広東省は雲南省・貴州省や広西壮族自治区などの観光地へ行く出入り口として広州を経由するくらいで、となりの香港と比べてもあまり観光の面では注目が集まる場所ではない。その中で今回の最大の目玉は「食在广东」である。世界遺産は「開平碉(diao)楼」を見る。穴場としては中国のユダヤ人と言われる客家人の住む「客家之乡梅州」を訪ねる。

以下食べ物を除いて、旅行予定先の状況を簡単に紹介する。

一 広東省の地理

☆ 地形

広東省は中国大陸の最南部に属し、通常「岭南地区」と言われている。“嶺”は文字通り高い山で、



広東省の地形

広東省の北側には高度 1,500～2,000m 程度の五つの山脈からなる「南嶺山脈」がある。この山脈により気候的に華中地区とは区別される。

この山脈は長江と珠江の分水嶺になっていて、褶曲造山運動の結果、複雑な地形と地質を持つ。概ね山脈に連なる北西側は古代のサンゴ礁堆積物である石灰岩に覆われており、桂林や石林のような奇景が見られる。広東省中央を流れ下る珠江は中国第三の大河で、流量は黄河を凌ぐ。

広東省中央部を車で移動するとラテライト (laterite) とよばれる熱帯・亜熱帯地方特有の煉瓦色の土壌が顕著に見られる。なお、ここの赤い土

壤は中国の対日資源戦争の手段になったレアアース(重希土類)を吸着してる風化土で、中国南部に広く分布してる。

緯度は台湾南部と等しく、冬でも温暖な亜熱帯気候に属している。省の南半分は北回帰線の南側に属していて、夏至の真昼には太陽は北側にいる。

☆ 行政区画・人口・経済

広東省は西は広西壮族自治区、北は南嶺山脈で隔てられて江西省・湖南省と隣接する。北東部は 2010 年に校友会の旅行で行った円形土楼がある福建省の南部に接し、南には香港・澳門(マカオ)および海南島があり、東南アジアへの窓口である。

広州市一帯は珠江河口の三角州に発達

した街で、古くから広東省の中心となっていた。広東省の面積は 18 万平方kmで、日本の約半分の面積に日本に近い 1 億 400 万人(2010 年)が住んでいて、中国の全省市中で人口最多である。その約 40%が珠江三角州の都市(広州・佛山・中山・珠海・東莞)に集中している。



赤い土壌



二 歴史

☆ 漢代まで

嶺南の地は秦の始皇帝により、本格的に中国の版図に組込まれた。元々は、三苗や百越などの稲作の長江文明を担ったと考えられている民族が、史記に記載されているように黄帝や堯舜禹に代表される黄河文明を興した民族に圧迫され、夏・殷(商)・周(春秋戦国)と時代を経て、順次南に住み着いていったとも言われている。また、始皇帝の征南軍の中からも少なくない北方人がこの地に住み着いたと考えられている。

嶺南地区には前漢の時に南越王が封じられた。1983年に広州市のど真ん中で住宅団地を作るべく丘を切



文帝行璽

り崩している最中に、南越王の墓が発見された。西暦紀元前二世紀当時の王侯の

状況を垣間見ることができる。

「紅絲玉衣」の遺骨の胸に抱かれた「文帝行璽」という一寸大の金印も発

掘された。墓の石室自体と1万点以上に及ぶ副葬品の一部が公開されている。

最初の南越王の趙佗(tuó)は河北の出身で、もともと始皇帝の50万人と称せられた征南軍の副将軍であった。始皇帝没後もこの地に留まり、秦の二世嬴胡亥(hài)の暴政に歯向かって独立し、番禺(pānyú: 広州)に都を置いた。

漢王朝成立後は漢に朝貢したが、劉邦亡き後、呂后との対立により、再度一時独立し、帝位を称した。5代約100年続いた南越国は、二代目文帝の時代までは比較的勢力を保っていたが、閩(mǐn)越(福建)との争いや漢からの圧力によって滅びた。

☆ 明代まで

その後清朝初期に至るまで、藩王が封じられたり中央からの直轄地になったりした。中原や華北に都を置く王朝からは永らく南蛮の地と看做され、左遷された人物が流されて来るなど、政治的にも重要視されず、ただただ「魚米之郷」であった。

明代になると、外洋航海の技術を身につけた欧州諸国の軍事貿易船が、広東省に近づくようになった。一方、明永楽帝の時に、色目人で宦官軍人の鄭和が、ジャンク型の巨船からなる大軍船

長江文明と日本への渡来人

少なくとも今から1万年以上前に長江中流域で始まったとされる稲の栽培は、次第に下流域へ拡がり、今から7千年前に遡る河姆渡遺跡では水田耕作が行われていたと想定されている。この長江文明を担った人々の子孫と推定されているY遺伝子型がO2系列の男性は、華南にはO2a系が大陸北方由来のO3系と拮抗する数が残っているが、O2b系は中国大陆にはほとんど残っていない。

このO2b系の最大の集積地は沖縄の先島諸島(70%)で、後は日本(35%)・韓国(30%)・ベトナム(15%)・タイ(5%)などに散らばっている。さらに、O2b系でも日本は3/4をO2b1が占めており、かれらはO2b1が1/4しかいない朝鮮半島経由とは異なる経路から渡来したと考えられている。なお、O3系に関しては華北(70%)・朝鮮半島(40%)・日本(20%)の順に割合が下がるので、大陸から半島経由あるいは直行で渡来したと考えられている。

団を率いて南京を出発し、東南アジア・インド・アラビアさらにアフリカの喜望峰を周って、7回(1405～1433年)も朝貢国の増加を狙った大航海を行い、それ以後、広東省からも多くの人が海を渡って華僑や華人となるきっかけともなった。

☆ アヘン戦争から辛亥革命

英国による対清貿易は、茶、絹、陶磁器などの大量輸入によって、銀の流出に喘いでいた。そこで英国はインド産アヘンの三角密輸に手を染めた。しかし、清の欽差大臣林則徐によって広州のアヘンは強力に取り締まれ、それに対抗して英国は1840年に東インド艦隊を派遣し、沿海および長江の諸港湾都市を攻略し、香港の割譲を始めとして中国大陆へ侵略の手を延ばした。

広東出身の孫文は、諸外国によって蚕食されていく自国の状況を目の当たりにし、清朝を打倒すべく革命に着手した。

☆ 共産党政権樹立後の広州交易会

中国がまだ西側諸国と国交がなかった時代、唯一の交易窓口が春・秋二回広州で開かれる広州交易会であった。日本でも“友好商社”と認定された会社の人たちは、香港で査証を取得して橋を渡って深圳から入境した。

☆ 改革開放

1978年の鄧小平の号令の下、1979年に厦門・深圳・珠海・汕頭が中国で初めて経済特区に指定され、世界(当初は主に香港・台湾や海外の華僑・華人)からの投資を受け入れた。福建省南部の都市厦門以外は、残りの3都市はすべて広東省にある。

☆ 世界の工場

珠江三角洲地帯(広州・中山・佛山・深圳・珠海・東莞の各市がある)は現在、輸出を主力に中国全体のGDPの約10%を担っている。世界の工場というのも「名不虚伝」である。内陸の地域からこの地への労働人口の流入は激しい。始皇帝の時以来の大移動と言えよう。逆に元からの広州人は、「广州近年多了很多外地人，而純广州人都喜欢移民海外或上北做生意。」だそうである。

三 言語

広東省の方言は、大きく分けた中国の五大方言の内の三つ、広東(粵)語・客家語・福建(閩)語が使われている。残る二つの方言は上海(呉)語と北京語(普通話)である。

それらは唐宋代の言葉をラテン語、客家語をイタリア語とすれば、普通話が英語、上海語はドイツ語、広東語はスペイン語、福建語はロシア語とでも言えるほど異なる発音と相違する単語を有するが、文法構造は欧州の各国語とは異なり、細かい部分を除けばある程度共通している。

☆ 広東語

広東省の中央から西部や香港に広がる広東語は声調が9種あり、話者は世界に8千万人いるとされている。元々この地に住んでいたチワン族などタイ語系の言葉と北方から流入した人々の言葉とが混ざったと考えられている。なお、最近の珠江三角洲地帯で増加した都市人口の過半は、仕事を求めて流入した人達(外地人)なので広東語は話せない。

☆ 閩南語

閩南語は福建語の主な方言であり、声調は7種が基本である。厦門など福建の

漢数字	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
閩南語	it	ji/li	sam	su/si	ngo	liok	ts'it	pat	kiu	sip
客家語	it	ngi	sam	si	ng	liug	ts'it	pat	kiu	səb

南部と広東省東部および台湾・海外で使われている。潮州・汕頭および中山市の一部で話されている閩南語には声調が8種ある。閩南語は福建省や台湾を含んで世界に5千万人の話者がいるとされている。なお、閩南語の「文讀(古典を読む時の読み方)」には唐宋代の発音が残っていて、漢数字は唐宋代の発音を受け継いだ日本語の漢音の読み方によく似ている。(表の発音は声調を省いて簡易 IPA で表記)

☆ 客家語

“客家の郷”と言われている梅州市の大部分とその西方の河源市の龍川および海南島の向かい側の湛江市の一部では、遙か中原の地から流転してきた客家人が話す客家語が使われている。客家人が江南の地を経て長い時間かけて移動する内に、その地方で話されていた南方方言の語彙を吸収しており、その意味ではラテン語の子孫であるイタリア語に比される。客家語の声調は6種あり、世界で3,400万人の話者がいるとされ、全世界の言語別話者数順位の32番目に相当する位置にある。なお、日本語は9番目でロシア語に次ぐ大言語である。

客家語の口頭語の漢数字の発音は、閩南語の“文讀”とおなじく日本の漢音に近く、漢語の古い音をよく残していると思われる。

普通話は学校教育やTV放送で使われているため、梅州でも高齢者を除けば、聴くだけでなく話すことも堪能である。ただし、捲舌音など一部に発音が標準でない人もおり、日本人の中国語学習者にとっては聴き取り難いこともあるが、店頭での買い物程度は問題ない。

四 開平碉楼

開平は広州の南西約130kmの江門市中央部に位置する。「碉楼(守備用の建築物)」は2007年にユネスコの世界文化遺産に登録された。西中の様式を折衷した、福建の客家の土楼にも比すべき住宅兼保塁・要塞である。最多時は3,000棟以上あったが、今は全部で1,833棟が残っている。現

在はほとんど住む人もない碉楼が多い。

☆ 由来

碉楼は明末の16世紀から建築が始まり、19世紀末から20世紀初頭にかけて盛んに建てられた。この辺りは台風などの風水害も多く周辺の4県の境目にあつたので、政府の管理が行き届かず匪賊の害が多発した。阿片戦争後はさらにひどくなり、多くの人々は海外に生活の道を求め、やがて財をなして帰国した。

開平は交通の便がよかったので、帰国華僑の財産を狙った匪賊の跳梁が猖獗を極めた。1912～30年の間に71件もの匪賊の大襲撃があり、100人以上の生命と210頭もの農耕用の牛が奪われた。

1922年に開平中学が襲われた際に、「碉楼」からの探照灯により反撃を加え、拉致された校長や学生を奪還した。これより碉楼の効果は大いに喧伝され、帰国華僑は競って「碉楼」を建てた。このため華僑が住んだ海外各国の数多くの様式の「碉楼」が立ち並ぶことになった。

☆ 構造と用途

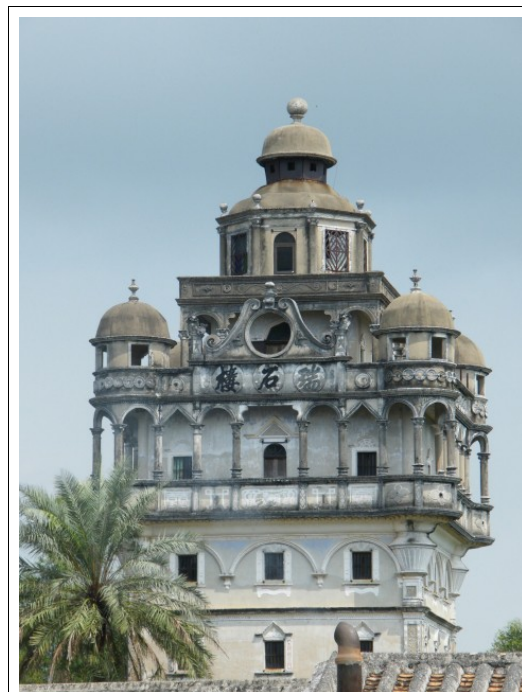
建物は高いほうが遠方を見渡せるが、生活には不便である。通常は2階建てが一番低く、高いものは7階建てのものもある。

建物は突起がすくない四角形であるが、屋根の形式は色とりどりで特色を出している。上の階には銃眼があり、いざとなると入り口や窓は鉄板や鉄格子で塞ぎ、俗称「燕子窩」と呼ばれる構造になる。60%以上が住居として建てられ、80%がコンクリート製である。

なお、日中戦争時には中山楼などが共産党軍の活動拠点としても使われた。さらに、1963～68年にかけての3回の大水害の際は、通常の家屋は屋根まで水没し、「碉楼」の上に上がって難を避けたということである。

★ 著名な碉楼

1920年に建てられた方氏灯楼はもっぱら警備用のもの(更楼)で、鉄筋コンクリート造りの5階建てである。宿直員を置き、常時匪賊の襲来にそなえた。錦江里の瑞石楼は開平一といわれる美しい建築である。雁平楼、日昇楼、翼雲楼なども有名である。自力村碉楼群、馬降龍碉楼群は多くの「碉楼」が集まる場所である。



瑞石楼

五 潮州

潮州は汕頭(スワトウ)の北に位置する街で、汕頭と同じく福建(閩南)語の潮州方言を話す人々

が住んでいて、面積は3,078 平方 km(神奈川県より約 20%大きい)、人口は 260 万人。

市内を流れる韓江(上流は梅江と汀江)下流の港町で経済特区の汕頭と実質的には一体化して考えられるが、潮州が古くは政治経済の中心であった。唐代に、唐宋八大家の一人の韓愈(yù)が刺史として左遷されてきて、善政を敷いたとされる。河の名称韓江はかれにちなむ。

★ 潮菜

潮州料理は、“爽やか・パリパリ・あっさり・新鮮”と表現されていて、日本人の口に良く合う。フカヒレ・燕の巣・ナマコなど高級食材を使う料理が多い。調味料や薬味にも気を使って、見栄えよく盛りつけてある。この辺りは厦門の料理と共通する特徴である。

★ 功夫茶

潮州功夫茶は清代の『夢廠雜著』に書かれていて、陸羽の『茶経』伝統を汲む中国茶道の正統である。主に鉄観音を使ったお茶の淹れ方はいろいろな儀式がある。

☆ 開元寺

唐の開元 26 年(738 年)に建てられた禅寺。奈良の東大寺と似ている宮殿式の建築形式で、多くの修理により昔の形がよく保存されている。

★ 広済(jì)橋

湘子橋とも呼ばれ、潮州城の東門にある。宋代(1171 年)の建築で、世界最初の浮き橋構造の開閉式の橋とされている。建築当初は船を並べたそうであるが、今は上部は鉄の構造物になっている。

中国四大古橋のひとつである。他の三つの橋は、安済橋(河北省石家荘、石アーチ 600 年頃)・洛陽橋(福建省泉州、石板 1059 年)・盧溝橋(北京市豊台、連続石アーチ 1192 年)であり、いずれも長い歴史や故事を持っているが、橋自体は多

数回にわたり修理されている。なお、安済橋は現存する中国最古の橋で、その石アーチの長さは建造後 730 年間世界最長であったという。



六 梅州

梅州市は面積 1 万 5,925 平方 km で、周りを山に囲まれた盆地である。ほぼ日本の岩手県並の広さがあり、人口は 500 万人を越えていて福岡県並みである。中心部の梅江区は釣鐘状に蛇行する梅江の南北に広がり、323 平方 km の土地に 30 余万人が住んでいる。

梅江は下流で福建省から流れてくる汀河と合流して韓江と名を変えるが、広東省では珠江に次ぐ全長 410km の大河で、盆地を蛇行しながら山を越えた潮州・汕頭を抜けて南シナ海に流れこむ。

☆ 客家

梅州は前述のように客家の郷と言われ、南進を続けてきた客家の人々が最後の安住の地にした場所である。

じつは、客家の人々はここからも広東省西部や世界に乗り出して行った。華僑・華人と言われている人々の約 1/3 は客家人だと見られている。大陸外の政治家では、台湾の李登輝元総統、シンガポールのリー・クワンユー(李光耀)元上級相(梅州大埔(bù)県出身)、タイのタクシン元首相とインラック現首相兄妹(曾祖父は梅州出身の客家人である丘春盛)、フィリピンのアキノ元大統領(福建から移住した客家人の後裔)などがある。

もちろん中国国内では、孫文、鄧小平(四川省出身)を始めとして多くの政治家や学者・芸術家を輩出している。

★ 嘉応学院

もともと中原の王侯貴族の末裔が多い客家は、学問を非常に重要視し、女性に至るまで文盲はいなかったと言われている。海外へ出た華僑・華人の常として、故郷の学堂に寄付をした。1913 年に梅県県立女子師範学校として設立された梅州唯一の公立大学である嘉応学院にも、大埔出身の香港の実業家田家炳の名を冠した図書館など、いろいろな建物に寄付をした人物の名が付けられている。



★ 葉劍英記念館

梅県の客家人で有名なのは解放軍の十大元帥の一人葉劍英で、市の中心部には劍英公園がある。葉元帥の故居は梅州の中心梅江区から梅江沿いに東北に 20km ほど川を下ったところにある。

★ 松口鎮

今は古びた田舎町になってしまっているが、かつて梅州の人たちがこの梅江の港から船に乗って梅江を下り、汕頭から世界に乗り出して行ったころは、小香港と言われる賑わいを見せた。

★ 中国客家博物館

2008 年に完成した客家に関する専門の博物館、なお、嘉応学院には客家研究所がある。入場無料、月曜休館。

最後に「中国十大最具安全感城市」という不思議な評価があつて、その「安心感」の順番は、北京(10)、上海、南京、杭州、青島、新余(江西省)、梅州(8.5)、舟山、威海、天津(8.0)だそうである。

七 広州

「羊城」とも呼ばれる広州市は広東省のほぼ中央部にある珠江三角州に位置し、古代より嶺南地域の中心であった。

★ 西漢南越王博物館

前述のように南越王の墓の石室と出土品が展示されている。参観予定日の翌2月28日は閉館日。

★ 越秀公園と広州テレビ塔

越秀公園は西漢南越王博物館と道を隔てた東側にあり、中に鎮海楼(広州博物館)・五羊石像などがある。明代に作られた石の城壁も残っている。

鎮海楼は明代(1380年)に広州城の城楼として建てられたもので、五階建の1~4階が広州博物館になっていて、広州の歴史や出土品が展示されている。

五羊石像は1960年に建てられた130塊の花崗岩からなる石像で、紀元前887年に天から羊に乗った5人の仙人が降臨し、五穀を広州の民に授けたという伝説を元に作ったものである。広州の別名が「羊城」という由来を象徴している。



五羊石像

広州テレビ塔は、東京スカイツリーの出現で今は世界第二の高さになったが、いろいろと中国的な趣向が施されている。どこか大阪の文化を連想させるのも商業都市だからであろうか。

★ 中山紀念堂

「革命尚未成功，同志仍須努力」の遺言を最後に北京で客死した、近代中国を導いた国父孫文は、広州市の南西隣の珠江クリーク地帯にある中山市(元は香山県と呼び、孫文の没後中山県さらに中山市に改称)の客家の出身である。

越秀公園の南側の広大な土地に中山紀念堂が広東省政府の建物に隣接して建っている。紀念堂内部は単なる会堂であり、外部からの見学に留める。

★ 黃埔(pǔ)軍校旧址

珠江の中州の長洲島に作られた軍事教育を目的とした学校で、第一次国共合作成立後の1924年、旧ソ連の援助の下、孫文が学校総理、国民党の蒋介石が校長、廖仲愷(liàozhòngkǎi)が国民党代表、中国共産党の周恩来が政治部主任となり、軍事教育はソ連軍が行った。後、南京に移転した。



「天下為公」の額がかかる
中山紀念堂と孫中山の像

★ 広東省博物館

名前の通り省の博物館で、歴史(出土品を含む)と美術工芸品や書などが展示されている。隣接して魯迅記念館(魯迅が1927年に二階に住んだことがある)がある。

★ 陳氏書院(陳家祠)

名前の通り広東省72県の陳という姓の一族の祠堂(祖廟)の機能を果たすものとして1890年から4年かけて建てられた。陳氏の子弟が学習するための書院としての機能も有していた。科挙の制度がなくなり、学校として貸し出された時期もある。

文化大革命の時、「打破四旧」を唱える紅衛兵の破壊活動から避難するために、中で『毛主席語録』などの印刷を行ったので有名である。1983年に改修され公開された。

★ 光孝寺

光孝寺がある場所は、南越王最後の5代目の趙建徳の邸宅だったところで、三国時代は孫権の呉が広州を治め、この場所では『易経』の講義が行われた。その後、跡地は寺に献上され制止寺と称した。

六朝(526年)の時、インドから禅宗の初祖菩薩達摩が珠江に辿りつき、この寺で井戸を開鑿し修行を始めた。菩薩達摩は後に金陵(南京)に招かれた。禅宗の6代目の祖慧能が唐代(676年)に当寺に来て剃髪受戒した。

境内はかなり広く広東省随一を誇る。さらに「未有羊城，先有光孝」という言葉があるくらい古い歴史を誇っている。このような歴史があるため、中国最初の禅寺と特別視され、今でも禅宗の修行の地として多くの仏徒が集まっている。

★ 六榕寺

名前の通り大きな榕樹(ガジュマル)が6本植わっている。開基は六朝(537年)で、中央にある通称花塔と言われている千仏塔(八角形9層56.7m)は北宋代(1097年)に建てられ、広州に現存する建物では一番古い。境内は建物が多く、ちょっと狭く感じる。

杭州の美食「東坡肉」の名で知られる北宋の詩人蘇軾(shi)がここに左遷されて来たときに、6本の榕樹が見事だと褒めたので、六榕寺となったという。

★ 沙面島

解放前、英仏の租界があった人工島である。島は河岸の砂地を埋め立てて運河を掘り、河岸から切り離れた構造で、青島の膠(jiāo)州湾、上海の外灘や厦門の「鼓浪嶼(gǔlàngyǔ: コロンス島)」にも見られる趣がある。

★ 新白雲空港

広州の空港は市街地の北方30kmの地に2004年に開港した。空港の出国免税店は、最近の他の中国の空港と同じくほとんど高級品ばかりである。中にある食事処も世界の価格と同じかむしろ

高いくらいである。必要なら飲み物以外の食品は、帰国前日に外部で購入して持ち込む方がよい。

☆ 歩行者天国

北京路など常設の「歩行街(歩行者天国)」が、昔からの街中に数ヶ所にある。北京路の途中では宋以来の楼の基礎と古道をガラス越しに見ることができる。ただ、地方から出てきて仕事がない「愤青(怒れる若者)」が多いので、もし自由行動で出かける際は、日本語を話さないなどの用心が必要かもしれない。

☆ 地下鉄

広州の地下鉄は2010年秋のアジア大会開催を機に大幅に整備された。現在8路線が市内を縦横につないでいて、21号線まで計画がある。ただし北京・上海と同じく駅間は長いので、日本のように気安く次の駅まで歩くという訳にはいかない。

従来はバスか車でしか行けなかった空港も地下鉄3号線が乗入っていて、アクセスは北京・上海と比べて遜色ない。市内最大の長距離バスのターミナルである天河客運站へも、乗り換えが必要であるが同じ3号線で空港とつながっている。

帰途、2泊する予定の珀麗酒店は2号線と8号線の乗換駅昌崗の上にある。



以上